

「四日市公害と環境未来館」で研究作品展示

3月21日(土)に「四日市公害と環境未来館」が開館した。本施設は、未来に豊かな環境を引き継ぐため、四日市公害の歴史を風化させず、環境改善のまちづくりと産業発展の中で得た知識と経験を国内外に広く情報発信することを目的に設置された。

開館記念事業として、「公害・環境に関する研究作品展」が行われ、本学は、「四日市公害に学ぶ～持続可能な北勢地域へ～」と題したパネル展示を行い、約5年かけて、大気汚染の原因となった有害物質の規制強化と公害患者減少の関係を明らかにする「環境と経済の統合モデル」とその研究成果を紹介。この他にも、中国とモンゴルで実施した大気汚染調査、伊勢湾における漂流・漂着ごみの研究、鈴鹿山脈におけるブナ林調査などを紹介。開館記念事業では、このほかにも地球温暖化や気候変動の様子を映し出すことができる「デジタル地球儀」の展示、未来の環境を守るためのメッセージを伝える「ちびっこ環境劇」などが行われ、多くの来場者で賑わった。



メディアコミュニケーション専攻卒業展

1月21日(水)、本学の学内スタジオにて環境情報学部メディアコミュニケーション専攻が「2014年度卒業展」を行った。「感性と情報環境」「音響」「映画と音楽で学ぶ英語文化とコミュニケーション」「メディアと映像表現」「デジタルコンテンツ」の5つのセミナーの4年生によって、自身が制作した卒業作品のプレゼンテーションが行われた。披露された作品の中には、レゴブロックを効果的に駆使し、医薬品開発の危険性を訴えるショート・ムービーなどもあり、遊び心を交えながらも社会への問題意識の警鐘を行った素晴らしい作品が仕上がった。

メディアコミュニケーション専攻の卒業展では、3年生がイベントのマネジメントを務めることが5年ほど前からの慣行となっている。イベントの精度は、年を追うごとに高くなっており、今回の卒業展でも、とても素晴らしい舞台が後輩たちによって整えられ、4年生たちは、後輩がプロデュースした晴れの舞台上、大学生活4年間の思いをのせて、自分の研究成果と作品作りの成果を披露した。



三重県学生ゴルフ大会で個人優勝

3月23日(月)、三重県学生ゴルフ選手権大会が津市稲葉町の青山高原カントリークラブ榊原七栗温泉コースで行われ、男子個人の部では、山田昌央さん(総合政策学部1年)が優勝、また、男子団体の部においても本学チームが見事3位入賞を果たした。本大会は、三重県学生ゴルフ連盟の主催で行われ、三重県内の大学でゴルフ部に在籍する男女28名によって、団体戦と個人戦の二部門が争われた。天候にも恵まれ、学生らは、距離を見定めながらのパッティングや豪快なショットを放つなど、はつらつとしたプレーで全18ホールをラウンドした。

これまでのPick Up Topicsはホームページでご覧いただけます。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/examinee/topic.html>



「四日市大学 入試広報室(YokkaichiU)」
入試情報や最新のニュースを掲載しています。

学校法人 暁学園 四日市大学

【発行】入試広報室

〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200

TEL:059-365-6711 FAX:059-365-6630

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/>

<http://smile.yokkaichi-u.ac.jp/> (受験生サイト)



世界を見つめ地域を考える

PICK UP TOPICS

YOKKAICHI UNIVERSITY

建学の精神 人間たれ

2015年4月1日発行【季刊誌】

VOL.

29

P.1・COC事業キックオフ・イベントを実施
・福島県葛尾村小中学校の校歌を録音、CDに

P.2・志摩・渡鹿野島ハートアイランドプロジェクト
・ボランティア交流会を実施
・自転車タクシーで選挙啓発活動

P.3・本学にてJAXA宇宙教育リーダーセミナーを開催
・国際協力海外研修(タイ研修)を実施
・三重県ベストプラクティスコンテストで発表

P.4・「四日市公害と環境未来館」で研究作品展示
・メディアコミュニケーション専攻卒業展
・三重県学生ゴルフ大会で個人優勝

COC事業キックオフ・イベントを実施



1月10日(土)多数の来賓、来場者を迎え、四日市大学「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」キックオフ・イベントが本学にて開催された。宗村南男学長の挨拶で開会し、四日市市政策推進部の藤井信雄理事と三重県企画部の大橋範秀課長から祝辞が送られた。続くシンポジウム「四日市大学と地域」では、経済学部、環境情報学部、総合政策学部の学部長と各学部の学生代表が登壇し、地域で取り組んでいる活動内容を紹介した。発表した学生からは、「大学を通じて地域活動に参加出来、自分の成長に役立った」や「大学での活動に加えて、大学の垣根を越えて自分から積極的に活動することで、地域と深く関わることが出来た」などの意見が出された。この他にも、四日市出身の津軽三味線兄弟ユニット『KUNI-KEN』によって、軽快な楽曲や伝統的な楽曲が披露され、大いに盛り上げた。本イベントを契機に、四日市大学のCOC事業がよい動き出した。

さっそく3月7日(土)には、若者の社会活動の様子や社会への意見、また、大学等での学問探究の様子を地域の方々に伝えることを目的とした「四日市大学わかもの学会」が行われ、各学部の今年度の最優秀卒業論文の発表や「鉄道とまちづくり」「ツナガリ」などの活動紹介が行われた。

福島県葛尾村小中学校の校歌を録音、CDに



12月26日(金)に本学7号館スタジオにて、併設校の暁中学校・高等学校の合唱部の部員約50名によって、福島県葛尾村立葛尾小・中学校の校歌の録音が行われた。

福島県葛尾村は、東京電力福島第1原子力発電所の事故によって、全村避難(人口約1,500名)となっている。今なお続く厳しい避難生活を続ける村民を元気づけるために、何か出来ないかという話が葛尾村役場で持ち上がったことをきっかけに、環境情報学部の卒業生で、葛尾村役場に勤務する大橋正敏氏が関根辰夫准教授(環境情報学部)に相談し、校歌を再録音してプレゼントしようという計画が進められた。

2月2日(月)には、関根准教授とゼミ生、東日本大震災での被災地支援に携わる鬼頭浩文教授(総合政策学部)が葛尾小・中学校三春校を訪れ、児童・生徒20名が歌う校歌を録音。それぞれの歌声をミキシングし、CDを制作した。

完成したCDは、卒業式で披露されたほか、今後は村の各種行事でも活用される。関根准教授は、「様々な方法で被災地の方々に喜んでいただける方法があるということ、協力した生徒や学生達は実感できたのではないかな。今後も、その他の町や村に同様の支援をしていきたい」と話す。収録を手伝った乙野一義さん(環境情報学部2年)は、「校歌は、生徒達の大きな心の支えになると思う。この録音でぜひ合唱の練習をしてもらいたい。何より自分の学ぶ学問分野が、人の役に立つことを実感し、とても嬉しい」と話してくれた。



志摩・渡鹿野島ハートアイランドプロジェクト

2月14日(土)のバレンタインデーに、志摩市磯部町にある離島の渡鹿野島で、学生たちが企画した『ハートアイランドで愛を育もう！ハートのかげらウォークラリー』を開催した。「ハートアイランド」は、渡鹿野島の形が空から見るとハート型であることに由来する。これは、岩崎・小林研究室(総合政策学部)のゼミ活動として、島の活性化を目的に取り組んでいる「ハートアイランドわたかのプロジェクト」のイベントとして行われたもの。この企画は、昨年、降雪の影響で中止となったため、今回が初めての開催となった。

当日は、県内各地から、16組のカップルが参加した。参加者たちは、遊覧船で島を一周した後、ウォークラリーに出発。島内の神社に願いを書いた絵馬を奉納したり、グラウンドゴルフを楽しみながら5つのポイントを廻って、ハートマークの破片を手に入れ、ハートを完成させた。参加者の中には、初めて島を訪れた方や子ども連れで参加した夫婦の姿もあり、バレンタインデーに家族や夫婦の絆を改めて確かめ、島の豊かな自然を満喫したようだ。

ボランティア交流会を実施



1月22日(木)、社会連携センターの主催で「チョボラ・プチボラ交流会」が行われ、20名を超える学生が参加し、ボランティアに関する相互理解を深めた。交流会には、岩崎恭典副学長や松井真理子社会連携センター長も参加し、岩崎副学長からは「君たちのような学生が、日本の社会に必要だ」、松井社会連携センター長からは「困っている人を助けたい人もいる。でも、ここにいるあなたたちは『手をさしのべずには、いられない人』です」などと学生のボランティア活動を奨励する温かい言葉が送られた。また、NPO団体「社会福祉法人いずみ」の三宅徹氏と山崎友博氏からは、同法人の活動内容や、障がい者の就業支援などの重要性についても丁寧にお話いただいた。「関係者には若者が少なく、大学生との交流は非常に良い刺激になる」とのことで、社会連携センターやボランティア部と今後も定期的な交流を行うことで、連携強化を約束した。

本学ボランティア部の古山孝一さん(総合政策学部3年)からは、「他人の目が気になって支援ができないと言う人もいるが、自分がやりたいのならやればいい。自分のためです」というハツとするような発言があった。

グループに分かれてのフリートークでは、「どんなボランティアをしてきたの?」「どうしてボランティアを始めたの?」など、初めて顔を合わす学生が多かったにも関わらず、活発な意見交換が行われ、会場となった学生ホールは大いに盛り上がった。



自転車タクシーで選挙啓発活動

2月14日(土)、四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」が、四日市内で選挙啓発活動を行った。「ツナガリ」は、本学と四日市市選挙管理委員会とが連携して、「若者と選挙との『ツナガリ』を深め、選挙への意識を変えることが、より良い地域を実現し、四日市の未来(次の世界)への「ツナガリ」をつくる」をモットーに若い世代の投票率向上を目指し活動している学生ボランティアサークル。

この日は、北勢地域の中高生が参加するボランティアサークル「四日市 United Children」のメンバーとともに、「投票でみせる街への愛着度」と書かれたラッピングを施した自転車タクシー2台を使い、近鉄四日市駅から四日市市民公園までを往復しながら、4月に行われる統一地方選挙の日程や四日市市の選挙啓発キャラクター「せんぴょん」が描かれたバレンタインデーのチョコレートやチラシを市民に配った。今回の啓発活動に参加した齋藤雅敏さん(総合政策学部4年)は、「政治や世の中に言いたいことがあるのなら、まずは1票を投じ、自分の意思を表明してほしい」と話す。

本学にてJAXA宇宙教育リーダーセミナーを開催

3月8日(日)、本学にて2014年度JAXA宇宙教育リーダーセミナーが開催された。本セミナーは、地域に宇宙教育や科学教育を広めることを目的としており、JAXA(宇宙航空研究開発機構)宇宙教育センターが主催し、四日市博物館と四日市大学の共催で行われた。

前半の講義では、JAXAの渡邊氏から「宇宙教育とは何か」という講義が行われ、参加者は熱心に聞き入った。その後、四日市博物館の伊藤氏による「ペットボトルロケット工作」の制作指導が行われ、参加者は楽しそうに黙々と工作に挑んだ。本学からは、千葉賢教授(環境情報学部)と卒業を間近に控えた伊藤和成さん(環境情報学部4年)と丹羽亮太さん(環境情報学部4年)が参加し、子どもたちをサポートした。最後は、全員が天然芝の第一グラウンドに集まって、ペットボトルロケットの試射が行われた。ランチャーに設置されたロケットが次々と大空に打ち放たれる度、参加者は歓声を上げ楽しんだ。

国際協力海外研修(タイ研修)を実施

2月19日(木)から8日間、国際協力論・タイ研修を実施し、環境情報学部、総合政策学部から5名の学生が参加した。この研修は、青年海外協力隊、NGO(非政府組織)、国際ボランティアなど、日本が行っている発展途上国での国際協力活動について学び、理解を深めることを目的に行われている。

研修では、タイ北部のチェンライで、教育機会に恵まれないタイ山地民の中高校生を支援する生活寮「暁の家」の活動内容を学んだほか、コーヒー畑の見学や山の村(ド・ンガム村)でのホームステイなど、村の実際の生活も体験した。他にも、チェンマイのストリートチルドレンを支援する団体「アーサー・パッタナー・デック財団」や老人ホーム「タマパコーン高齢者社会福祉開発センター」といった、子供たちや高齢者の支援活動を行っている団体などを訪問した。

訪問先での学生たちは、日本の四季の美しさや三重県の名所や名物などを紹介、また、メンライマハートウィッタヤライ高校では、日本語コースの生徒の皆さんとの「日本語クイズ」を行うなど、親睦を深めることができた。今回の研修では、参加学生は、タイの現状や日本とは異なる支援のあり方や取り組みなどについてじっくり考える契機となり、とても貴重な経験となった。



三重県ベストプラクティスコンテストで発表

3月1日(日)、津市のアストホールにて「ベストプラクティスコンテスト&大学・地域連携シンポジウム」が開催された。ベストプラクティスコンテストは、学生と地域の取り組みを日頃の活動状況や進捗成果などを発表するもので、三重県の戦略企画部が主催している。

この日は、事前に行われた書類審査を通過した県下高等教育機関13団体によって、持ち時間8分間によるプレゼンテーションが行われ、来場者をオーディエンスとして一人2票、審査員5名、各3票の投票方式で審査が行われた。本学からは、経済学部の東村ゼミの学生グループで構成された「模擬会社夢追プロ」の1団体が勝ち進み、代表の中川昌大さん(経済学部4年)らが発表を行った。また各団体のプレゼンテーション終了後に行われた地域連携シンポジウムでは、中川さんがパネリストを務め、会場から高い評価を得ることができた。審査結果は、本学を含む13団体全てがベストプラクティス賞を受賞した。

